

百道浜校区における防災の基本的な考え方

～「避難所中心」から「在宅避難中心」へ～

百道浜校区は、高潮や河川の一部決壊、液状化などの災害リスクがある一方で、比較的新しい埋立地として計画的に整備された街です。

校区内の建物は、新耐震基準以降に建築されたマンションや戸建住宅が大半を占め、電柱の地中化や広い道路など、災害に強い都市基盤が整っています。また、木造住宅密集地域と比較すると、大規模火災の危険性も低い地域です。

このような地域特性を踏まえると、百道浜校区では建物の倒壊や延焼よりも、停電・断水・通信障害・エレベーター停止など、ライフラインの停止による生活への影響が大きな課題になると考えられます。

「建物の安全が確認できる場合は 自宅で生活を継続する在宅避難を基本とする」

という考え方を防災の基本方針として推進していきたいと考えています。

避難所は、自宅で生活を継続できない方や、建物に被害を受けた方が利用する重要な施設です。一方で、多くの住民が安全な住まいを離れて避難所へ集中することは、避難所運営の負担増加や生活環境の悪化につながる可能性があります。

在宅避難を実現するためには、各家庭での備えが不可欠です。

今後の検討課題

- ① 備える物の確認
 - ・簡易トイレ
 - ・飲料水¹(1人1日3リットル×3日分)
 - ・モバイルバッテリー
 - ・その他
- ② 安否確認
- ③ 災害時要支援者へのアプローチ

「災害に強い街」から「災害が起きても暮らし続けられる街」へ